

身近にある思いやり

宮崎市立広瀬小学校 二年 蛸原 俊

「ここにも思いやりを見つけたぞー！」

ぼくはこの夏、思いやり発見名人に少し近づいたかもしれない。こまっている人にとってひつようなこと、つまり、身近にある思いやりをたくさん見つけたからです。

きっかけは、おばあちゃんとのつたるせんバスです。のったりおりたりしやすいと言っていたおばあちゃんのことばをもとに、本で調べてみることにしました。さい近はノンステップバスといって、だんさをなくしたものが多く使われていることが分かりました。ぼくのよな子どもからお年よりまで、また車イスやベビーカーを使う人のことも考えて、入口やつうろ、ざせきがつくられていました。イスやボタンをおすいちも工夫されていました。バスの方の思いがたくさんつまっていると分かり、たまらなくうれしくなりました。

お父さんとのさん歩で、交差点近くに黄色いブロックがならんでいるのを見つけました。丸いつぶがたくさんついていました。目の不自由な人が、このブロックをたよりに安心して道を歩けるようにと作られたものでした。その上を歩いてみると、足のうらにつぶのかんしよくがあり、わかりやすかったです。また、おうだん歩道が青になると音がします。目の不自由な人に青しんごうを知らせるためのものです。いつも何気なく通っていた道が、とてもかがやいて見えました。

お母さんとの買い物でも見つけました。トイレのはり紙が、日本語のほかに、えい語やそのほかの国のことばで書かれていました。どの国の人にもつたわるように、工夫されているんだなあと思いました。手あらい場やエレベーターのボタンは、ノンステップバスと同じように、低いばしょにもうしゅるいありました。車イスせん用のちゅう車場もありました。お店の方の思いがうれしくて、レジの人におれいのことばをつたえました。

おじいちゃんは、魚つりの時につり糸が見えないので、じゅんびに時間がかかります。お店で、めがねにめがねをとりつけて、小さいものを大きくする道具を見つけました。おじいちゃんに使うてもらったところ、糸が見えやすくてたすかったとよろこんでいました。これがあったらたすかるだろうなあと思います、つくられた方の気もちがつたわってきました。

世の中にはいろいろな人がいます。できることとできないこともさまざまです。全ての人が気もちよく生活するためには、こまっている人だけでなく、周りの人の力も大切です。ひつようなことに気付く力、これもだいじだと思えます。ぼくの場合は、高い所に手が届きません。そのことに気付いているぼくの家ぞくは、台をじゅんびしてくれています。当たり前前の生活と決めつけずに、もしかしたらという思いをもつことで、気付く力も高まると思います。この気付く力を育てて、身近な人をもっともっと幸せにしたいと思えます。

人けんと言葉

国富町立本庄小学校 三年 石橋 彩華

わたしは、はじめ人けんと聞き、どういいうみなのだろう、ときもんに思いました。国語じてんで調べると、人けんとは、「人間が人間らしく生きるために、とうぜんみとめなければならぬけんり。自由や平どうのけんり。」ということだとしりました。それでわたしは、お友だちとのかかわりについて考えました。

わたしはなかのいい友だちとあそんでいると、とても楽しいですが、友だちのほうはどう思っているのでしょうか。ときどきロゲン力をするときがあり、おたがいにおたがいを悪く言い合ってしまいました。自分はゆるせなくて言いたいことをたくさん言っているだけでも、相手は知らない間にたくさんきずついているかもしれません。

また、ときどき男の子にいやなことを言われて、とても悲しくなることがあります。人をきずつける言葉を言うほうは、ちょっとぐらい、と思っけていても、言われるほうは、とてもたくさんきずつくこともあるのです。わたしは、弱いものいじめをしてはいけないと分かっているのに、とてもゆるせなくなります。では、もしも、自分が同じクラスの子に、その男の子と同じようにいやな言葉をたくさんかけた場面を考えてみます。その子はわたしと同じように、きずつくでしょう。また、その子にちゃんと家族がいて、周りの人にあいされてそだってきたのに、自分がそんな言葉をかけると、そのクラスの子だけでなく、周りの人、その子のお父さんやお母さんもきずつけてしまうかもしれません。わたしはそんなことはせつたいにしないようにしたいです。

人をみためや生まれつきでせめたり、いじめたりするのは、あつてはならないことです。いじめをしないで、なかよくできたらいいと思います。言葉一つで人をしあわせにしたり、いやな気もちにしたりできるので、これから自分の言葉に気をつけて、せきにんをもちたいと思います。そして、これからも、みんなにやさしくできる自分でありたいです。

しょうがいのある妹

宮崎市立住吉南小学校 三年 黒田 壮太

ぼくの妹は、生まれた時からしょうがいがあります。妹は、左の耳しか聞こえなくて、のうりょうとうものがないというしょうがいでした。お母さんは、少し気にしていたけど、お姉ちゃんとぼくはあまり気にしませんでした。なぜかというと、妹はしょうがいがあるけど、いろいろなことができるからです。たとえば、せんたくものをたたんだり、はしでちゃんとごはんを食べたり、ぼうアイスを自分で食べたり、少しでもだえばトイレもできるし、きがえもできます。なので、まったくいやだなあと思うことはありません。

でも、一つだけできないことがあります。それは、上手にしゃべれないことです。妹に何かをつたえたりする時は、少しむずかしいです。だから、ぼくはさいしょに名前をよんで、「うん」か「いいえ」で答えさせています。さいしょは、あまり上手に答えてくれませんでした。今は上手にできています。妹が何かをつたえたい時は、自分からジェスチャーで教えてきます。たとえば、自分の方に来てほしい時に、ぼくの手をひっぱってつれていきます。おんぶをしてほしい時は、ぼくのことをすわらせてのってきます。妹はジュースがすきなので、家族のだれかをひっぱってれいぞうこを開けてとおねだりしてきます。それがかわいいので、ついついジュースを出してしまいます。このようにしているいろいろなことをつたえてくれます。

生まれた時は、大きくなって歩けなかったりしゃべれないかもしれないと言われていたけど、リハビリにずっと通っていたから、今は、さんぽにも行けるし走れるのであまり心ばいはしていません。妹は今水泳をならっています。もぐれないので心ばいだったけど、前見に行った時は、水泳を楽しくやっていたので安心しました。

来年、妹は小学生になります。だけど、妹は、同じ小学校に行けるかわりません。行けなかった時は、その小学校でがんばってほしいです。妹のいい所は、いつもえがおな所です。ぼくは、妹のえがおを見ると元気が出ます。みんなもそのえがおがすきだから、妹はいつもかわいられています。

妹といっしょにくらしてきて、ふつうの子どもしょうがいのある子どもはあまりかわらないと思います。

これからも、妹とたくさん遊んで楽しく、くらしていきたいです。

